

證拠一札之事

一此度米屋己三郎発記講私手前様取致し候之所
頼母志定法田畑之外質物不相用付貴家
御所持御田地四ヶ所地利都合拾石壱升三合押借
仕拾貢匁方^ニ出入候所実正明白御座候、尤此
引宛^与して末次氏銀札八貢目相頼預貢
則右賦銀を以年々同家より右講戻致被呉候
義定仍^而末次より貴館へ請合一書取差上
置候、誠御太切之御田地年長御貸被下候段
忝仕合神々以箋略に相心得間敷候
素り如何躰有之候^而も此御田地彼是
御役害聊無之様致し終年無恙御返
上申上候様手前家族共へも申付置候、為後
年一札如件

文化十四年

丑霜月日

大谷新九郎判

深田三郎右衛門殿